

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
自他の「いのち」を尊び、主体的に学び・行動する生徒の育成 ～一人一人の自己肯定感を高めながら～	①あらゆる場面で規範意識(ルールやマナーを守る意識)を高める。 ②唐津市学力向上アクションプランに基づいた授業改善に取り組み、学力を高める。 ③人権意識を高め、いじめや差別をしない・させない・許さない心情を高める。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

**3 目標・評価**

**①規範意識(ルールやマナーを守る意識)を高める。**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○ 学校経営方針	学校の教育目標や教育方針の周知徹底。	・教職員、特に保護者へ具体的な取り組み内容を広報し周知をはかる。周知率88%を目標とする。 ・授業参観への参加を促す。 ・はなまる連絡帳へのアクセスで一日200件以上、月4000件以上を目指す。	・諸通信やHPなどの活用とPTA総会や参観日、懇談会等の機会を利用して広報を図る。 ・全保護者の65%出席を目標に、公民館と連携し、広報に努める。 ・はなまる連絡帳は、内容の更新を毎日行なう。
	○ 危機管理体制の整備	危機管理体制の整備と関係機関等との連携。	・危機管理マニュアルの再点検と整備。 ・避難訓練や不審者進入対策訓練の計画的な実施。	・マニュアルの再点検といじめ防止の日常的な取組の確認。 ・PTA、警察、青少協等との連携と予防的行動の促進。 ・災害時の具体的避難行動の実践を行う。
	○ 保護者、地域との連携の充実	地域連携行事のより効果的で無理のない実施を図る。	・参加率の達成だけでなく、達成感や充実感のある行事をめざす。	・目的や意義を明確にして、地域や保護者との連携をより積極的に推進する。
	○「開かれた学校づくり」の推進	意義やねらいを踏まえて地域と連携して実施する。	・保護者の評価で87%以上の達成率をめざす。 ・関心が高い内容の講演会・講習会の開催。	・地域人材の活用とともに、保護者や地域の方の参加により親子触れあい・地域ふれあいの機会とする。 ・地域の特性を生かしたヨット体験・魚さばき体験を実施する。 ・今日的課題による講演会・講習会の実施。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	規範意識、モラルの高揚	・会議や事務の効率化を図り、教職員が生徒と向き合う時間を確保する。 ・明るい雰囲気職員室づくりをめざし、美化や環境を整備する。 ・使命感や責任感を強く持ち、教師としての力量を互いに高め合う職員集団の結成を目指す。	・会議資料の事前配布等により、全職員の共通意識を高める。 ・職員間の雰囲気が学校の雰囲気をつくるという観点から、日常の明るいあいさつと感謝のこたえが飛び交う職員室になるよう働きかける。 ・職員間のコミュニケーションを図り、情報の共有化をはかる。
教育活動	○ 生徒指導の充実	自律の心を育て、基本的な生活規律を守らせる。	・生徒会活動の活性化を図り、具体的方策に示している三つの基本項目で保護者評価がそれぞれ80%以上の達成率をめざす。	・あいさつ、時間を守る、中学生らしい服装の3つを基本項目として生徒会の点検活動や保護者協力等により指導の充実を図る。
		関係機関との連携の推進を図る。	・早期の対応で問題行動の未然防止に努める。	・民生委員会及び児童相談所・警察等との日常的連携の充実を図る。

**②唐津市学力向上アクションプランに基づいた授業改善に取り組み、学力を高める。**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○ 教職員の資質向上	経験年数に応じた職務能力の向上をめざす。	・評価育成システムを活用し、資質の向上への意識づけのため面談を年間5回以上行う。また、計画的に校外の各種研修会(九州・全国)に積極的に参加させる。	・評価育成システム及びキャリアデザインの効果的運用を図る。 ・自己の課題に応じて個人テーマを設定し研修に努め、研究授業を一人一回以上実施する。 ・教職員の資質向上のために講演会を実施する。
教育活動	● 学力の向上	基礎学力の定着、学力の向上で進路実現をめざす。	・標準学力検査・学習状況調査等で前年度比上昇をめざす。	・県学習状況調査では県平均を目指す。 ・小中連携による授業規律の推進。 ・数学の基礎学力向上のための朝学習の工夫(教え合い等)。
	○ 全国・県学力及び学習状況調査の活用	結果を分析し、校内研修の場で共通理解を図る。	・事前の取り組み及び意識づけを行い、前年度比上昇をめざす。	・テストの結果と学習状況の調査結果を保護者・地域にも公表し、特に家庭学習の充実を図る。学力向上推進教員による研修会を実施する。
	○ 小中連携教育の推進	児童生徒や保護者の立場に立った連携教育の推進。	・生徒保護者の評価で70%以上の評価及び小中学校での授業公開と交流会を行う。	・小中合同研修会の充実と共に、児童・生徒間の交流及び年3回の教職員間の交流も図る。
	● 志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒の割合を70%以上にする。	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。

**③人権意識を高め、いじめや差別をしない・させない・許さない心情を高める。**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	● 心の教育の推進	豊かな心の育成	・ふれあい道徳を実施する。 ・人間関係に重きを置いた道徳教育を実施する。 ・人権・同和教育に関する講演会を実施し、人権・同和教育に関する生徒の意識を80%向上させる。	・道徳の授業において、学年ごとに人間関係に関わる項目を年間計画に計画的に組み入れ、認め合い支え合う人間関係を構築する。(アンケートによる検証) ・教科、道徳、特別活動、総合的な学習、学校行事などで取り上げ、学校の教育計画の中心に位置づけ内容の充実を図る。 ・体験学習と関連付けて豊かな心を育成する。 ・人権・同和教育に関する講師を招聘し、意識化を図る。(アンケートによる検証)
	● いじめ問題への対応	教育相談体制を整え早期の対応でいじめの未然防止を図る。	・生徒や保護者の評価でいじめ「0」を目指す。	・計画的な教育相談期間の設定を行う。 ・教育相談の内容の共通理解を図る。

**本年度の重点目標に含まれない共通評価項目**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	● 健康・体力づくり	・健康づくり 望ましい生活習慣の形成 ・体づくり たくましい体の形成	・発育測定・生活アンケートを活用し、生活習慣の見直し、改善を図る。 ・全国体力・運動能力運動習慣等調査において前年度比上昇をめざす。	・発育測定や生活アンケートを利用し、保健・学活・道徳などの授業で健康について学習する。また、生活習慣について、防煙教室等の各種講演会を実施する。 ・体力テストの結果を分析し、体育の授業を通じ、補強運動や補助運動を行い不足している体力の向上を目指す。また、部活動とも連携を図り基礎体力の向上に取り組む。

●は共通評価項目、○は独自評価項目